

# 文化財建造物の防火・防犯対策チェックリスト

このチェックリストは、建造物の防火・防犯対策に関して、**所有者が自ら点検を行う**ことができるよう作成したものです。

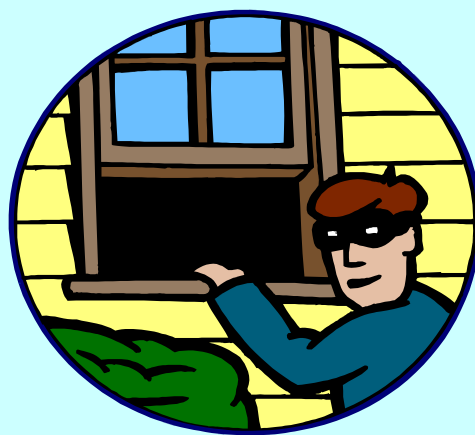
文化財の防火・防犯対策は、それぞれの文化財の実情に応じて対策を建てるのが基本であり、ここで掲げている対策が講じられていれば十分というものではありません。

既に対策を講じている場合でも、**一度、このチェックリストを用い**

防火対策は十分



防犯対策は十分



# チェック 1 建造物の特性

項目	チェック	例示	考えられる災害	対応策の例
<b>1) 建造物固有の特性</b>				
屋根材料が可燃性である	<input type="checkbox"/> はい	檜皮、こけら、茅など植物性材料	花火や近隣火災からの飛び火による火災	・可燃性の材料は、火の周りが早く、かつ一度着火すると鎮火するまでに時間を要します。そのため、予防策に重点をおいて防火対策をとりましょう。
	<input type="checkbox"/> いいえ	瓦、石板、銅板、鉄板など		・同上の対策を参考に対策をとりましょう。また、一部でも可燃性の屋根材料を使っている場合は、同上の対策を検討しておきましょう。
構造が木造（可燃材）である	<input type="checkbox"/> はい	木材など植物性材料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・隣地からの類焼、近隣火災からの飛び火による火災</li> <li>・内部からの出火</li> </ul>	・木造の場合、火の回りが早いため早期発見に重点をおくことを基本としましょう。特に、外壁が木造の場合は、放火対策を講じることが必要です。また、消防機関が到着するまでの初期消火又は延焼拡大防止対策が重要な対策です。
	<input type="checkbox"/> いいえ	土蔵、石造、煉瓦造、コンクリート造など	内部からの出火	・同上の対策を参考に対策をとりましょう。また、一部でも可燃性の材料を使っている場合は、同上の対策を検討しておきましょう。
<b>2) 敷地について</b>				
建物の周囲に十分な空地がなく、消火活動等が困難な場合	<input type="checkbox"/> はい	敷地一杯に建物が建ち並び、空地がない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消火活動が困難</li> <li>・隣地からの類焼</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・敷地に十分な空地がない場合は、消火活動が困難となります。不必要に障害物をおかないようにして、消火活動の際の障害とならないようにしましょう。</li> <li>・また、隣地家屋が近い場合は、延焼防止対策を講じ、予防策に重点をおくことを基本とします。</li> </ul>
	<input type="checkbox"/> いいえ	公園内や野外博物館等にある		<ul style="list-style-type: none"> <li>・同上の対策を参考に、適宜、対策の見直しを行いましょう。</li> <li>・なお、空地がある場合、警戒が充分に行き届かない所があるかもしれません。死角になる場所、時間がないように、警戒体制を見直しておきましょう。</li> </ul>

項目	チェック	例示	考えられる災害	対応策の例
<b>3) 建造物がある立地について</b>				
木造が密集した地域にある	<input type="checkbox"/> はい	伝統的建造物群保存地区など保存すべき地区の内部にある	<ul style="list-style-type: none"> <li>・隣接からの類焼や飛び火による火災</li> <li>・消防活動や避難活動が困難となる可能性が大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木造が密集している地域にある場合は、火災が発生すると面的な火災となり、危険性が高まります。失火しないように予防策とともに、延焼防止対策が重要です。特に重要伝統的建造物群保存地区などは、地域全体として消防力を高めることによって、火災へ対応していく必要があります。重要文化財（建造物）の防火対策を検討する場合は、周辺の道路幅員、公設の消火設備、水利の種類、配置等を考慮に入れましょう。</li> </ul>
	<input type="checkbox"/> いいえ	木造の建物の密集地ではないが、周囲に建物が建て込んでいる	消防活動や避難活動が困難となる可能性大	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて、火災対策に重点をおいて、防災対策を見直しておきましょう。</li> </ul>
山間部や島嶼などに位置している	<input type="checkbox"/> はい	周囲に人家等がない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害の早期発見が困難</li> <li>・地域の消防力の協力を得ることが困難</li> <li>・落雷による火災</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山間部や島嶼などにある場合には、火災発生を知らせる受信器の信号を確実に受けられるようにして、早期発見に重点をおく事を基本として連絡体制を確実にしておきましょう。また、地域の協力を得られない場合を想定して、所有者等の管理体制に応じた防火対策とすることを基本とします。</li> </ul>
	<input type="checkbox"/> いいえ			<ul style="list-style-type: none"> <li>・同上の対策を参考に、適宜、対策の見直しを行いましょう。</li> </ul>
<b>4) その他(博物館等に収蔵されている)</b>				
木造の覆屋等、他の建物の内部に収められている	<input type="checkbox"/> はい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・覆屋に収められている神社本殿や本堂等の内部に収められている厨子等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・火災被害の拡大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・覆家が木造の場合、重要文化財（建造物）と一体として防火対策をとることを基本とします。</li> </ul>
	<input type="checkbox"/> いいえ			
博物館等（非木造建築物）、他の建物に収められている。	<input type="checkbox"/> はい	博物館や収蔵庫に収められている場合		<ul style="list-style-type: none"> <li>・博物館等、収めている建物と一体的な防災対策を検討することを基本とします。</li> </ul>
	<input type="checkbox"/> いいえ			

## チェック 2 活用に関する特性

項目	チェック	例示	考えられる災害	対応策の例
1) 活用する人の属性				
不特定の人、あるいは多数の人が利用する	<input type="checkbox"/> はい	・参拝者や観光客が多く訪れる施設 ・学校施設や公会堂等		・利用人数を把握し、きめ細やかな対策を検討する必要があります。また、不特定かつ多数の人が利用している状態で火災等の災害が発生したことを想定して、消防署の指導を得ながら避難計画を含めて防火対策を検討しておきましょう。
	<input type="checkbox"/> いいえ	・基本的に非公開で、特定の人のみが利用する。		・同上の対策を参考に、適宜、対策の見直しを行いましょう。
2) 火気の使用について				
宗教行事等で裸火を使用する。	<input type="checkbox"/> はい			・火気使用時の監視体制を強化することを基本としましょう。
	<input type="checkbox"/> いいえ			

## チェック 3 管理体制

項目	チェック	例示	考えられる災害	対応策の例
1) 通常の管理体制について				
管理者が不在（あるいは少人数）である。	<input type="checkbox"/> はい	・常勤している職員等がない。 ・常勤しているが、高齢者のみである等災害時の初動体制が取れない可能性がある	火災等の災害の発見が遅れる。初動体制ができない。	・管理の実態に応じた防火、防犯対策とすることを基本とします。死角となる時間あるいは箇所がある場合は、その状態を適切に把握し、実際の管理体制（人数等）に応じた防火、防犯対策としましょう。
	<input type="checkbox"/> いいえ			・同上の対策を参考に、適宜、対策の見直しを行いましょう。
昼間や夜間など、管理体制が異なる。	<input type="checkbox"/> はい	夜間には無人（あるいは少人数）になる。		・管理の実態に応じた防火、防犯対策とすることを基本とします。死角となる時間あるいは箇所がある場合は、その状態を適切に把握し、実際の管理体制（人数等）に応じた防火、防犯対策としましょう。
	<input type="checkbox"/> いいえ			・同上の対策を参考に、適宜、対策の見直しを行いましょう。

## チェック 4 防火設備

項目	チェック	例示	考えられる災害	対応策の例
1) 防火設備の点検について				
定期的な点検を実施している。	<input type="checkbox"/> はい			<ul style="list-style-type: none"> <li>定められている点検（法定点検）に加え、落雷後なども作動しているか確認しておきましょう。</li> <li>消火栓設備については漏水などしていないか、管路を確認しておきましょう。特に設置してから30年以上経過している場合は、一度、詳細な検査をおこなうことをお勧めします。</li> </ul>
	<input type="checkbox"/> いいえ			<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な点検を行い、機能不全、機能停止等が発生した場合は、すぐに改修し、常時作動できるようにしておきましょう。止むを得ず防火設備を停止する場合には、事前に関係者や関係機関に通報し、十分に注意しましょう。</li> </ul>

## チェック 5 建造物内部の収蔵物

項目	チェック	例示	考えられる災害	対応策の例
重要文化財等の美術工芸品を収蔵している。	<input type="checkbox"/> はい	・彫刻、襖絵などの絵画等を収めている。		<ul style="list-style-type: none"> <li>内部に収蔵している美術工芸品の特性を把握した上で、建造物と美術工芸品の双方の保護を基本として防災対策を検討しておきましょう。特に、火災等の災害時に容易に搬出できない場合は、美術工芸品の保護方法も検討しましょう。</li> </ul>
	<input type="checkbox"/> いいえ			

これからも「国民のたから」を大切に  
守りましょう！！

文化庁文化財部参事官(建造物担当)

〒100-8959

東京都千代田区霞が関3-2-2

TEL 03-5253-4111(内線2798)

03-6734-2792(直通)